

しのほら歴史便り

篠原地区歴史同好会/浜風会会報 No.41号

2023.1.1

三十年前の力作「ふるさとカルタ」

平成三年度の婦人学級で会員の総力を結集して作成し、出来上がったカルタに皆で喜び合いました。当時のことを思い出しながら、作成の経過を紹介します。

篠原地区は旧東海道と共に発展し多くの神社や寺院、立場本陣、一里塚等の古い歴史や地名が残され、南には太平洋が茫洋と開け、前浜は地域の人々の生活と深く結びつき親しまれてきました。戦後地引網も行われていて大変な賑わいであったと言



われています。

カルタづくりは先ず読み札に当たる言葉を考える作業から始め、一人一枚ずつ持ち寄ることにしました。それぞれに苦労しながらもその結果、篠原ならではの特色ある興味深いものが集まりました。

その中から読み札になった例を二つ

㊦ 早出しの 特産玉ねぎ 日本一

㊧ 波小僧 遠州地方の 七不思議

それに合わせ今度は絵を描く作業ですがそれは大変でした。会員の鈴木正子さんが担当されました。一枚一枚特徴のある切り絵で描かれており、言葉によく調和した温もりのある絵が出来上がり、大変好評でした。

仕上げは読み札の文字を毛筆で書く作業で、藤田道さんと鈴木俊乃さんが担当されました。美しい文字で書かれた「カルタ」が出来上がり完成しました。

当時篠原小学校教頭の山下孝先生にも、読み札づくりに助言をいただきました。時代と共にカルタに表した行事や、風習言伝えも少なく



なり、篠原特有の言葉も使われなくなりましたが、カルタを通じてふるさとの歴史や昔の生活の一端が、伝えられたら良いなと思います。

この「ふるさとカルタ」は、篠原地区協会のふれあいサロン等で使われていますが、この正月には協働センターでカルタ大会が開かれる予定です。この「ふるさとカルタ」を改めて味わってみようと思います。(鈴木正子)

万葉風歌人 柳本城西

〜浜松文芸の先駆者〜

昭和二年建築の柳本診療院

平成十七年に閉院となった柳本診療院が、最近門や土塀と共に、庭の樹木も取り払われ突如縦窓が特徴の洋館風の建物の全容が現れた。



この建物は従来の木造日本建築に西洋建築の特徴的意匠を混合し、「和魂洋才」を評価され、

『静岡県の近代化遺産』に収録されている。そして昭和十九年の東南海地震をも乗り越え、美しいたたずまいを残している。建主である初代院長、柳本満之介は西洋医学を修めた医師にして万葉風の歌を嗜む文化人としても知られている。その生涯を歌人「城西」に視点をあて辿ってみたい。

「城西」揺籃の地豊橋

柳本城西は、一八七九（明治十二年）四月四日、愛知県渥美郡豊橋町（現豊橋市関屋町）生まれ。本名満之介。城西が育った関屋町は吉田城の西に位置し、城西には第三師団歩兵十八連隊が駐屯し、豊橋衛戍病院が設置された。「城西」を雅号とし、軍医・医師として活躍しながら短歌作りに情熱を傾けた。

◆ 『犬夢』創刊まで

◆ 一九〇二（明治三十五年）二十五歳。医術開業免許を受けて豊橋病院外科医として勤務。

◆ 一九〇三（明治三十六年）二十六歳。医学の傍ら文学にも関心を持ち、特に伊藤左千夫歌集を楽しみ、短歌作りに情熱を持ち始めた。『馬酔木』に投稿して伊藤左千夫の選を受ける。

◆ 一九〇四（明治三十七年）二十七歳。日露戦争に召集され陸軍三等軍医となる。

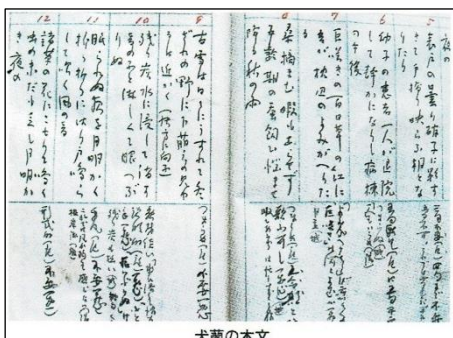
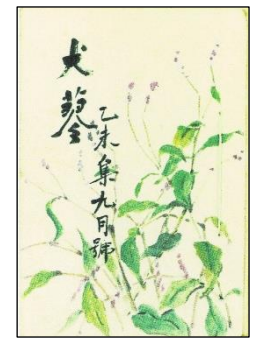
城西は出兵中も正岡子規の流れを汲む『鶉川』『甲矢』の二誌に短歌や俳句を発表し続けた。『鶉川』（岐阜）への投稿は城西が最も多く、また毎号欠かさずに投稿し意欲的だったことが伺われる。投稿歌を挙げる。

募集和歌「家」
・ 諸越の冬の山野にもものゝ心は
『アンペラ』つりて慮こもりせり
『甲矢』は編集者の病により、城西の旺盛な創作意欲を置き去りにしたまま消滅した。

結婚を機に篠原村に転居、 医院開業

浜松最初の近代短歌会「犬夢」の出発

柳本城西が幹事となって、回覧式冊子『犬夢』を始めたのは明治四十一年六月である。月例の互選歌会で、浜松地方における最初の近代短歌会である。時に城西三十歳。田中千代との結婚は前年。静岡県浜名郡篠原村に転居、医術開業したのは前々年の明治三十九年十月のことである。人生の新しいスタートを切ったばかりの、意欲と希望に満ち満ちた時期であった。『犬夢』第一号は七名で出発した。城西のもとに送られてきた歌稿を、城西自身が毛筆で全部和紙に筆写、それを袋綴じにして回覧し、批評を書き込んでゆくという形式である。第一号は表紙を除いて七ページ。表紙のデザインは毎回変わるが、誠に垢抜けた出来栄である。この形式がその後も続けられる。



犬夢の本文



「時局の要請に随ひ発行中止以来満五年の歳月が空しく流れ去った。

「時局の要請に随ひ発行中止以来満五年の歳月が空しく流れ去った。柳本城西の短歌にける情熱の賜物であった。死の翌年の昭和四十年、満子夫人の手による歌集が刊行された。歌集には明治四十二年以後の作品で、『アララギ』に掲載された歌のみ千五



明治・大正・昭和の歌の架け橋となり、近代文学の短歌の歴史を創った人である。
(鈴木理市)

達磨とサイコロ再起の決意
復刊第一号は、昭和二十一年一月。表紙に達磨とサイコロが描かれ、「再起の決意を込めていた」と思われる。この表紙は妻満子の手になるもので、昭和三十九年の終刊まで担当した。巻頭には「復活発足に当たりて」なる城西の言葉が掲げられている。



我が甥と
一緒の志願
一 兵なりき
ソロモンの上に
潜きて還らず

城西は、昭和三十四年ころから体調が優れず、昭和三十八年九月、『犬夢』九月号の編集を終えて豊橋病院へ入院。翌年の二月に死去。享年八十六歳、法名「歌光院豊雲城西居士」。この年の八月、犬夢短歌会会員により、柳本城西追悼号が発行され『犬夢』は五十六年、五百九十八号の歴史を閉じた。

近代短歌の歴史を創る
城西は浜名郡の医師会会長、NHK短歌講師、浜松市民文芸選者を歴任。勲五等瑞宝章受章。常に歌に生き、楽しみ、そして苦しみながら、『犬夢』五百九十八号の歴史を紡いだ。まさに、

伊藤左千夫の歌評が載るのは第五号からで、手紙で同人の作品を送り左千夫に評を加えて返送してもらい、それを城西が写した。こうして始まった回覧雑誌『犬夢』は、昭和十五年十二月の第三八四号で太平洋戦争のため中断する。篠原小の忠魂碑前には昭和十八年詠の歌碑が立てられている。

茫々正に夢のごとし。今我は三千年来初めての悲惨な運命のどん底に陥り、いばらの中になげこまれてしまったのであるが、とにかく生き残った以上、幸か不幸か知れないにしても、犬夢を復活しようと思ふ。(後略)城西の再刊への並々ならぬ意欲が感じられる。

百二十八首が年代順に収められている。巻頭に土屋文明が序文を寄せている。「翁の歌風は、その人柄からくるものと見えて、常におとなしく正直で、淡々として一人己の道を行くといふ風であった。本歌集はアララギの歌風が地方在住の忠実なるアララギ会員に、如何に反映したかを知る資料ともなるのではないかと思ふ。(要約)」

おかげ参りの様子が書かれた太鼓台

篠原の神明宮に約百九十年前に奉納された太鼓が今でも力強く響いています。この太鼓と太鼓台を紹介します。

太鼓本体には奉納者が記されています。

江戸神田鎌倉横町 伊丹屋善助

同 須田町壱丁目 西村九兵衛内おかね

同町 平助内おゆり

八幡前 伊兵衛娘

江戸の三人の内伊丹屋善助は篠原村の神社や寺にいくつかの寄付をしていて、この村の出身であることが判明していますが、西村九兵衛と平助がこの村とどのような関係があるかは分かっていません。また妻や娘を奉納者としたことには何かの理由がありそうです。太鼓台は頑丈な造りで地元の寄付です。



記述は、

神明宮広前 施主 立場連中

天保二卯年 五月吉祥辰

当村大工 弥吉郎作之

太鼓本体には寄付年月はありませんが、台には天保二年（一八三一）に立場連中の寄付であり本体も同時期と考えられます。興味深いのは台の上部の太鼓を乗せる面におかげ参りの様子が記されていることです。

おかげ参りとは

おかげ参りは、江戸時代に起こった伊勢神宮への集団参詣のことで、およそ六十年周期にはやり、天保元年（一八三〇）は三回目にあたり数百万人が参詣したと言われています。

おかげ参りの最大の特徴は、奉公人などが主人に無断で、または子供が親に無断で参詣したことと、通行手形もなく、大金を持たず沿道の施しを受けながら信心の旅をしたことです。

太鼓台に記された道中の様子

太鼓台には次のように記されています。（判読できる箇所を意識）

「昨年三月阿波の国から伊勢参宮が始まった。おかげ参りが流行して若男女が昼夜を分けず群をなして参詣に向う。道筋の村々で



は接待小屋を造り、飯や粥や菓子などをふるまっている。駕籠や馬を美しく飾り、人足は思い思いにキラで飾って上り下りの足の弱い人を送っている。笛・太鼓・三味線の音やはやしなども聞こえる。合わせて数万人の賑わいで前代未聞のことだ。後々の話の種としてここに記しておく。保泉寺隠居書」

詳しい描写ですから参詣した人から聞いたことを寄付されたばかりの太鼓台に書き付けたのだろう。すぐには見つからない箇所だから年月を経て話題になればと法泉寺隠居は考えたか。それにしても伊勢に向う道中の賑わう様子が伝わってきます。この村からどのくらいの人が出掛けたのか知りたいたいものです。（鈴木忠）

浜風会会報第41号
篠原協働地区同好会「浜風会」
（篠原地区郷土の歴史を学ぶ会）
編集委員 委員長 山下勝彦
鈴木忠 鈴木理市
藤田博辞 山中道弘
発行責任者 山下勝彦
発行 令和5年1月1日